

学校名 南城市立久高幼稚園	TEL：098—948-3950 Eメール：mamiko00619@city.nanjo.okinawa.jp
------------------	--

1 実践事項

「幼児が遊びこむための環境構成と援助の工夫」 ～心を動かされる体験を通して～

2 実践内容

- ① 身近な人や自然、ものとの関わりの中で心を動かされる体験を通して、幼児が遊びこむための環境構成や援助の仕方を工夫する。
- ② 地域の方や小中学生、保育園生などとの関わりを通して地域（久高島）の文化や伝統に触れる。
- ③ 保育ドキュメンテーションを活用し、課題解決や保育の質の向上を図る。

3 説明資料

〈本園の良さ〉 ○幼小中併設校 ○地域一帯となった行事の取り組み ○単学級での3年保育



園庭でイラブーの赤ちゃんを見つけた経験から、興味を示している。図鑑でイラブーについて調べている。



イラブーについて詳しく知るために、イラブー漁をしている地域の方のところに行った。



実際にイラブーを見たり触れたりにおいを嗅いだりした子どもたちは、驚きや感想などを言葉で表現している。また、不思議に感じたことを地域の方に質問する姿も見られた。



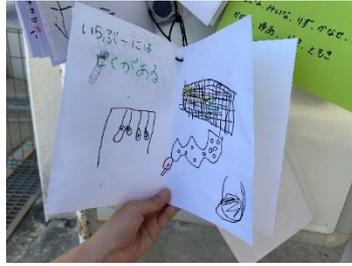
生きているイラブーを見て、「沢山いる！」「うにようようごいでる！」など感じたことを言葉で表現している。生きているイラブーだけでなく燻製をしている様子や卵、皮など普段あまり見ることができないところも見たり触れたりすることができ、子どもたちの心動かされる体験になっている。



散歩から帰ってきた子どもたちは、イラブーの絵を描きたいから、「紙ちょうだい」と言い、絵を描き始めた。最初は、絵を描くだけだったが、描きながら島の人に教えてもらったことを振り返り、気づきや発見も紙に書くようになった。



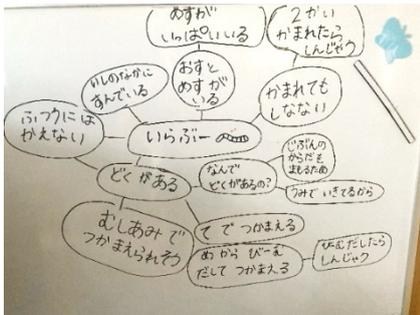
子どもたちが作った絵本や図鑑は、保育室の入り口に掲示し、保護者にも見えるようにすることで、家庭でも園のことを話さきっかけになっていた。



絵を描くだけでなく、イラブーを見に行き気づきや発見、不思議なことなどを書いて、絵本や図鑑を作ってみる等遊びを深めてほしいと思い、写真を画用紙に貼り、子どもたちがドキュメンテーションのようなものをつくることできるようにした。

子どもたちは、島の人に教えてもらったことだけでなく、実際に見たり触ったりして感じたことなども書いて、絵本や図鑑を作っていた。

- ・これまでの園生活の中で絵本を作ったり、小中学校の図書館に行って絵本を読んだり絵を描いたりする経験があったので、すぐに「絵本を作りたい。」「イラブー図鑑作る!」と言い、遊びが広がっていった。



子どもたちと一緒にイラブーについて話す場を設けた。感じたことや不思議に思ったことなどを友達や教師に伝えたりする中で、「どうして毒があるのかな?」「どうやってつかまえるのかな?」など、さらに疑問に思うことが出てきた。



- ・子どもたちは、「もっとイラブーのこと知りたい!」「いらぶーはかせみたいになりたい。」と話していた。また、「いらぶーはかせに教えてもらったことをみんなに教える!」という話になり、「発表会で見せよう!」ということになった。
- ・発表会では、地域の方も見に来ていたので、子どもたちが作ったイラブーについての生活劇やイラブーについての絵本を披露することができた。

4 成果

- ・地域の方や保護者にも子どもたちが興味を示していることを伝えることで、実際にイラブーを見に行く体験ができ、さらに遊びが広がっていった。
- ・久高島の身近な自然や地域の方、小中学生と十分に関わり心動かされる体験をすることで、幼児の好奇心や探究心が膨らみ遊びが展開継続していった。

5 課題

- ・各年齢の発達段階を踏まえながら、幼児一人一人に合った言葉かけや援助の更なる工夫。
- ・今後も地域や家庭、小中学校との交流を深め、心動かされる体験を通してさらに遊びこむことができるような環境構成や援助の工夫を考えていきたい。